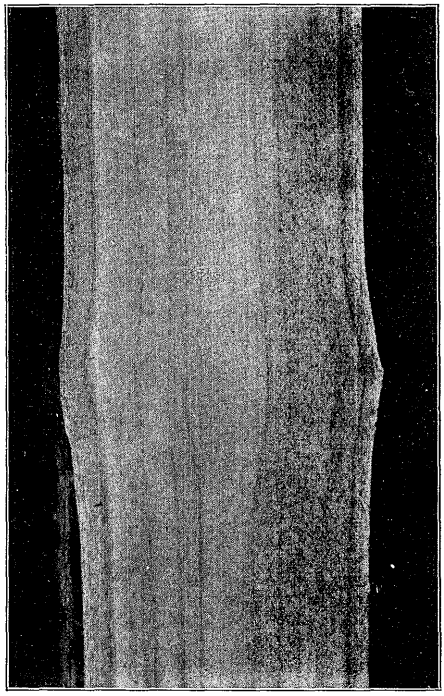
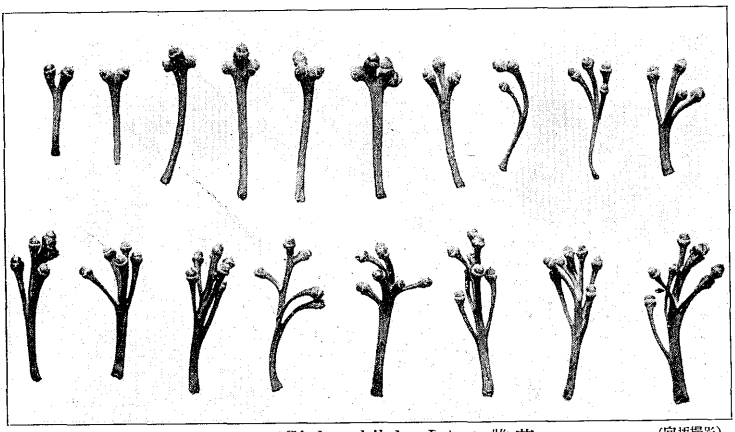


面切縦ノ材りき
（影撮来刈）

等ノ呑口ガ澤山トレル、末口五寸以上ノ桐ニ材デアレバ簞笥材ニ適スルアきりガ特ニ簞笥材ニ尊重サレル所以ハ材カ狂ヒノ來ヌコト、濕氣ヲ呼バヌコト等デルガ、尚俗ニ此中ニ藏スル衣類ニハ蟲ガ附ヌト稱シテ居ル、又俗ニきりノ木ノ下草ハきりノ雨滴ヲ受ケルタメ速ニ枯死スルト言ハレテ居ル（事實ハソレ程デモ無クきりノ葉ガ濃キ日蔭ヲ與ヘル爲下草ガ生エヌノデアラウ）、是等ノ俗説ト同科植物デギタリスガ强烈ナ有毒成分（コレハ同時ニ有効成分）ヲ含有スルコトト思ヒ合ハスレバ或ハきりノ木ニ何カ特殊ノ有毒成分ヲ含有スルニアラザルヤヲ疑ハシメル、依テ小生嘗テきりノ葉及ビ材ヲ酒精ニテ浸出シ適當ニ處理ヲ加ヘタル後蛙及ビ鼠ニ注射シテ見タガ少シモ毒性ヲ現ハサナカッタ、カノ船艦材トシテ貴バレルチーク材ハ「テクトヒノン」Tectochinon $C_{18}H_{16}O_2$ トイフ防腐、防蟲ノ効アル成分ヲ含有シテ居ルガ、きりニハカヽル特殊ノ成分ハ無イ樣子デアル

○いちゃう（公孫樹）ノ雌花ノ變異

東京帝國大學農學部講師　向坂道治（サキサカミチヂ）



いちゃう (Ginkgo biloba L.) ノ雌花　(向坂撮影)

春四月初旬ニ各短枝ノ頂ニ束生シテ花ガ咲ク通常六或ハ七本ノ花梗ヲ生ジ梗上ニ二胚珠ヲ着ク、ソノ一方ガ熟シテ秋十月ニ黄色ノ膨大シタ果實ガ出來ル俗ニぎんなんト云フノハソノ内ノ核デアル、然ルニ各梗上ニ胚珠ガ二ツ以上時トシテハ十一個モ出來ルコトガアル(寫眞參照)コノ事ニ就テスプレヘル (SPRECHER) 氏ガ「ル、チンゴビロバ」(Le Ginkgo biloba) ナル書ニ研究結果ヲ發表シテ居ルガ私ハ更ニ多クノ場合ヲ調査シタカラコヽニ書イテ見ル、左ノ第一表ハ甲州身延下山村本國寺ノ老公孫樹ノ雌花五百個ヲ胚珠ノ數ニ從ッテ表示シタモノデ全數ノ八十五%ハ普通ノ二胚珠ヲ有ッ花デ大體十五%ハ畸形的變態ノモノデアル、更ニ第二表ハソノ變リ花ダケニ就テ百分率ヲ行フタモノデ胚珠ガ二ツデモ通例ノト異ッテ叉狀ニ分岐シタ小柄ノモノヲ含ンデ居ル、大體ニ言フト無柄デ頂ニ二ツ或ハ三ツ更ニ四ツノ胚珠ヲ生ズル所謂「セッシル」型 (Sessile form) ト梗頂附近ニテ各小枝ニ枝分シタ「ペヂセル」型 (Pedicel form) トニ別ッ事ガ出來ル

（表　一　第）

胚珠數	個體數	百分率
1	1	0.2%
2	427	85.4%
3	35	7.0%
4	10	2.0%
5	7	1.4%
6	7	1.4%
7	8	1.6%
8	2	0.4%
9	1	0.2%
10	1	0.2%
11	1	0.2%
	500	100%

（表　二　第）

胚珠數	個體數	百分率
1	1	1.2%
2	11	13.2%
3	35	42.0%
4	10	12.0%
5	7	7.4%
6	7	7.4%
7	8	9.6%
8	2	2.4%
9	1	1.2%
10	1	1.2%
11	1	1.2%

普通ノ二胚珠ヲ生ズル柄ハ形態學的ニ枝(Shoot)デアッテ組織的構造ハ維管束ガ放射狀ニ四ツ或ハ五ツ配列シテ居ルノデ「アキシス」(Axis)ト考ヘテ居ル、畸形的ノ場合モ花梗部ハ均シク枝的構造ヲナスガ各小枝ガ或ハ枝ノ分岐シタモノカ或ハ葉柄部ニ相當スルカガ問題デアル、頂ニ密生シテ居ル胚珠デハ葉片部ニ相當シタ部分ハ「カラー」(Collar)ト云フ隆起部デ葉柄ハ短縮シテ居ルカラ問題ニナラヌガ畸形的分岐シタモノデハ研究者ノ意見デ一定シナイ私ハ組織學的ニ觀察シテ各小枝ヲ葉柄ト考ヘタノデアル、ソレハいちやうノ他ノ部分ニカカル分岐ヲシタ器官ガナク更ニ長枝ノ葉序トコノ花梗ノ分岐開度トガ一致シテ居ルカラデアル

○奇草きよすみうつぼノ果實ト胎座數

藥學士　久內清孝
木村康一

昨年七月十日東京帝國大學藥學科生藥教室ノモノ同士デ武州高尾山ヘ採集ニ行ッタ時學生橋本亮君ガ薄暗イしなのがきトあをきトノ根元ノ處ヲ指シテ變ナモノガアルト言フカラ早速ニ採ッテ見ルト紛フ方ナキきよすみうつぼ(一名わうとうくわ)デアッタ、序ニ附近ヲ見廻ハスト可ナリ澤山アッテ何レモ花ザカリデアッタガ余等ハコレマデ高尾山ニヨク來タガコンナモノニ出會ハシタノハ本年ガ始メテデアッタ、採集シ考ヘテ見ルト何レ果實ガ出來ルニ相違ナイト依テ今度ハソレヲ目的ニ復ビ有志ト同月二十七日ニ行ッテ見タラ果シテ少數デハアルガ已ニ果實ガ結バレテアッテコレヲ採集スルコトガ出來タカラ今茲ニコノ植物ノ果實ニツキ所見ヲ認メルコトニシタ

此ノ植物ノ學名ハ Phacellanthus tubiflorus S. ET Z. デ其屬名 Phacellanthus モ SIEBOLD ET ZUCCARINI 兩氏ガ一八四六年ニ新設シタモノデアルコトハ兩氏著 Florae Japonicae Familiae Naturales, Sectio altera. ニアル